

2023年12月期 第118期 第2四半期 業績概要

2023年8月10日
日東精工株式会社
(証券コード 東証プライム:5957)



2022年3月
健康経営銘柄
2年連続選定

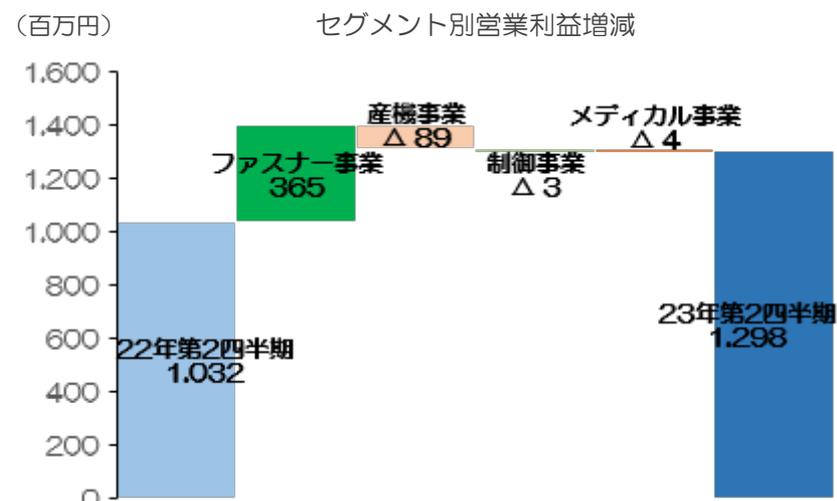
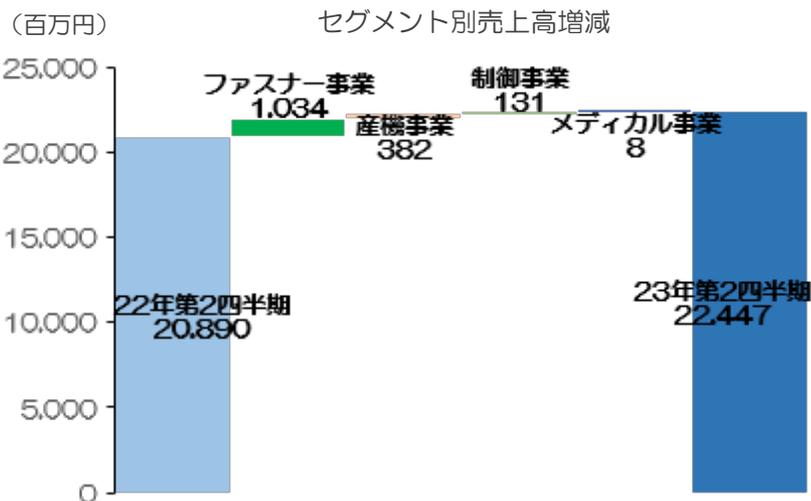
2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

単位：百万円／％	22年12月期 第2四半期		23年12月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	20,890	100.0	22,447	100.0	1,557	7.5
売上総利益	4,764	22.8	5,117	22.8	353	7.4
販売管理費	3,732	17.9	3,818	17.0	86	2.3
営業利益	1,032	4.9	1,298	5.8	266	25.9
経常利益	1,270	6.1	1,476	6.6	205	16.2
税金等調整前当期純利益	1,612	7.7	1,494	6.7	△117	△7.3
親会社株主に帰属する当期純利益	996	4.8	833	3.7	△162	△16.3
一株当たり当期純利益（円）	26.97		22.57			

- 自動車関連業界や住宅・建築業界向けのファスナー製品が好調であったことや、昨年4月のケーエム精工、ピニングの連結子会社化により、前年同期比7.5%の増収。
- 利益面では、資源・原材料高騰による部品価格の値上げなどがあったものの、販売価格の改定や製販一体となったコストダウンの推進などにより、前年同期比25.9%の増益
- 海外は、東南アジアは堅調に推移したものの、米国・中国経済の減速により受注が低迷し、売上高は横ばい。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／%		22年12月期 第2四半期	23年12月期 第2四半期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	15,226	16,260	1,034	6.8
	営業利益	434	800	365	84.0
	利益率	2.9	4.9		
産機事業	売上高	3,070	3,453	382	12.5
	営業利益	571	481	△89	△15.7
	利益率	18.6	13.9		
制御事業	売上高	2,588	2,720	131	5.1
	営業利益	73	69	△3	△5.4
	利益率	2.9	2.6		
メディカル事業	売上高	4	13	8	182.9
	営業利益	△47	△52	△4	—
	利益率	—	—		



単位：百万円/%	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	15,226	16,260	1,034	6.8
自動車	5,368	6,147	778	14.5
住宅・建築	3,055	3,691	636	20.8
電機・電子部品	2,775	2,387	△388	△14.0
雑貨	1,112	1,243	131	11.8
IT・情報機器	755	627	△127	△16.9
精密機器	552	535	△17	△3.1
医療	166	142	△23	△14.1
エネルギー関連	70	90	19	28.1
その他	1,373	1,398	25	1.8
営業利益	434	800	365	84.0

- 主力の自動車、住宅・建築分野での堅調な需要および価格転嫁の効果もあって増収増益。
- 海外では、インドネシアの需要が好調に推移。

◆自動車

- 資材不足による顧客の生産調整などがあったものの、EV・ECU・電池・センサ・電動化向け「ギザタイト」「アルミタイト」「CPグリップ」「座金組込みねじ」「精密プレス品」や、車両の軽量化・薄板化に貢献する新製品「JOISTUD(ジョイスタッド)」のシリーズ化により需要が堅調に推移。

◆住宅・建築

- 建築向け締結部品「ドリルねじ」「ナット」などの需要が好調に推移。また、新製品「シェアクロス」の市場投入で今後の伸長に期待。

◆電機・電子部品

- 資材不足の影響が大きく、需要は低調に推移。

◆雑貨

- 国内ではコロナ禍での巣ごもり需要の衣服感もあるものの、海外(中国、台湾)の売上増により堅調に推移。

単位：百万円/%	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	3,070	3,453	382	12.5
自動車	1,954	1,826	△128	△6.6
電機・電子部品	209	711	502	240.0
遊技機	55	206	151	277.1
IT・情報機器	98	139	41	42.2
住宅・建築	47	104	57	122.5
エネルギー関連	165	99	△66	△40.0
雑貨	23	10	△12	△54.9
その他	519	358	△162	△31.3
営業利益	571	481	△89	△15.7

- 継続して活況な電動化などの事業分野からの需要に加え、昨今各分野でクローズアップされる人手不足を背景に好調に推移するも、原材料の高騰などの影響もあり増収減益。今後、価格転嫁含め利益創出に向けた取り組みに努める。
- 海外では、タイ・台湾での需要が好調に推移。

◆自動車

- 活況なCASE・EV関連設備、新車種組み入れに係る設備改造、人手不足解消の自動化設備の引き合いは多いものの、原材料価格高騰による顧客設備投資意欲の低下などもあり、ねじ締め装置の需要は低調に推移。

◆電機・電子部品

- 基板メッキ装置の大型案件獲得など、前年同期比大幅増。

◆遊技機

- 新機種生産に伴う「組立ライン」ならびに「ねじロボ」など、大型受注を受けて売上高は大幅増。

◆IT・情報機器

- スマホ関連の特需により好調に推移。

◆住宅・建築

- 省人化に向けた設備の需要が好調に推移。

単位：百万円/%	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	2,588	2,720	131	5.1
化学・薬品	592	633	40	6.8
エネルギー関連	443	439	△4	△0.9
住宅・建築	288	256	△31	△11.0
電機・電子部品	151	171	19	13.1
造船	138	164	25	18.7
自動車	190	144	△46	△24.4
医療	42	67	25	59.5
その他	744	846	102	13.8
営業利益	73	69	△3	△5.4

- ・本年4月よりドイツにて「日東精工アナリティック ヨーロッパ」が営業を開始。欧州における技術サービスの強化を図り、拡販を目指す。
- ・前年同期比減益も、価格転嫁の効果が顕著となり1Qからは改善基調。
- ・海外は、円安による影響を受け流量計の需要が好調。また、中国・韓国では、造船の需要回復の傾向あり。更なる売上拡大に向けて製販体制の強化を図る。

- ◆化学・薬品
 - ・分析装置を中心とし、各種流量計などの需要も堅調に推移。
- ◆エネルギー関連
 - ・分析装置の需要は横ばい。
- ◆住宅・建築
 - ・地盤調査機「ジオカルテⅣ」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く状況もあり低調に推移。
- ◆電機・電子部品
 - ・分析計測機器の需要が堅調に推移。
- ◆造船
 - ・CO2排出規制に係る国際制度への移行により、流量計の改造や質量流量計への置き換えなどの需要が国内外ともに好調に推移。
- ◆自動車
 - ・分析機器の需要はあるものの、部品不足の影響を受け大幅減。部品検査装置「ミストルシリーズ」は省人化・自動化の流れもあり引き合いは活発。ミストルについては、難解な検査設定を容易にするAI機能の開発を進め、今後の巻き返しを図る。

単位：百万円／％	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	4	13	8	182.9
医療	4	13	8	182.9
その他	—	—	—	—
営業利益	△47	△52	△4	—

◆医療

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、これに係る国内特許取得。今回の国内特許取得を弾みに、まずは年内の非臨床試験完了を目指し、一貫製造設備の整備、臨床試験に向けた試料の製作、性能試験など、上市に向けた取り組みに注力する。
- 当社既存技術を活かした新たなプロジェクトを始動。医療機器の拡充を図る。

2023年12月期 第2四半期 (連結) 貸借対照表

単位：百万円／％	22年12月期 期末		23年12月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	34,342	64.3	34,170	64.0	△172	△0.5
現金及び預金	9,098	17.0	9,618	18.0	519	5.7
受取手形・電子記録債権/売掛金	13,986	26.2	12,815	24.0	△1,171	△8.4
棚卸資産	10,081	18.9	10,917	20.5	835	8.3
固定資産合計	19,065	35.7	19,199	36.0	134	0.7
有形固定資産	14,085	26.4	14,211	26.6	125	0.9
無形固定資産	1,146	2.1	1,048	2.0	△98	△8.6
投資その他の資産	3,833	7.2	3,939	7.4	106	2.8
資産合計	53,408	100.0	53,370	100.0	△37	△0.1
負債の部						
流動負債合計	14,601	27.3	13,631	25.6	△969	△6.6
支払手形・電子記録債務/買掛金	9,015	16.9	8,962	16.8	△52	△0.6
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,436	5.6	1,851	3.5	△584	△24.0
固定負債合計	4,304	8.1	4,021	7.5	△283	△6.6
負債合計	18,906	35.4	17,652	33.1	△1,253	△6.6
純資産の部						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.6	—	—
資本・利益剰余金	28,208	52.8	28,838	54.0	629	2.2
自己株式	△1,246	△2.3	△1,341	△2.5	△94	—
純資産合計	34,501	64.6	35,717	66.9	1,215	3.5

単位：百万円	22年12月期 第2四半期	23年12月期 第2四半期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	300	2,371	2,071	690.0
投資活動によるCF ※②	△1,517	△539	978	—
（フリーCF） ※①+②	△1,217	1,832	3,049	—
財務活動によるCF	△661	△1,105	△444	—
現金及び現金同等物の増減額	△1,659	556	2,215	—
現金及び現金同等物の期首残高	10,435	8,305	△2,129	△20.4
現金及び現金同等物の期末残高	8,776	8,862	85	1.0

2. 2023年12月期 第118期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

2023年12月期（連結）業績予想

単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,021	100.0	46,500	100.0	2,478	5.6
営業利益	2,931	6.7	3,500	7.5	568	19.4
経常利益	3,235	7.3	3,700	8.0	464	14.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,828	4.2	2,200	4.7	371	20.3
一株当たり当期純利益（円）	49.50		59.54			

- 資材不足の影響は残るものの、自動車分野（EVやECU）を中心に需要の回復、また価格転嫁した受注品の出荷割合が高まることで、増収増益を見込む。
- ファスナー事業は、自動車分野では軽量化・電動化に貢献する各種ねじ製品に加え、子会社伸和精工の精密プレス品などの需要増、ウィズコロナならびに大阪万博関連などで第二の柱である住宅・建築分野向けねじやナットなどの伸長にも期待。
- 産機事業は、自動車業界の新機種投入、CASE関連など、大型生産設備案件の獲得や、電気・電子部品分野の需要回復、価格転嫁含めた利益創出の取組みにより下期挽回を目指す。
- 制御事業は、省人化や自動化のニーズにより、分析装置・検査機関連は堅調な推移を見込む。また、流量計は、造船の国際制度への移行による需要を見込む。
- メディカル事業は、販社との連携強化に努めるとともに、医療現場のニーズや市場を見据えた新製品の開発を進める。